

夷狄の君と諸夏の君

土田龍太郎

論語二十篇にあまた記せる孔子の言行、漢土本朝のかしこき人々の古へよりひたぶるに親しみ習ひきたれるはいふもさらなり。さるはまたいかに思ひ勘ふともつひにえ解きえぬままにさてやみなむほかなき仲尼の教説かれこれはたなにきあらず。

八佾と曰へる論語第三篇、何晏の集解にてはすべて二十六章に分ちたれど、いかにぞやことにゆかしくおぼゆるは左の第五章にてぞある。

子曰夷狄之有君不如諸夏之亡也

孔子そもいかなる本意もてかく説けりしやらむ、この短章ただあからさまにうち見るほどはおほかたの旨趣だにとみには辨へがたきぞあいなき。

論語註解のたぐひとあまたにて數ふるにいとなきはいはでもありなめども、わけて弘く世に行はれたるものとは南宋朱熹の筆になれる論語集注をあげではあるべからず。むねと濂洛諸儒の説を引けるこの新註に對^{むか}へて古註と呼びならはせるは魏の何晏の論語集解にほかならず。さらにこの古註につきて梁の皇侃と宋の邢昺おのおの義疏をものしたれどもに今に傳はりたり。

後れて世に出でたりし論語解義のたぐひくさぐさあるが中に、必ず見であるまじきは程樹徳の著はせる論語集釋なること疑ひなし。この程氏げに一代の碩儒と呼ばむにいささかも憚りなかるべくして、ことには漢土の法制律令のかたにつきて業績きはだちて著作あまたあり、論語の考究にもはら携はりしは老いて病みつきし後のことにて、西紀千九百四十二年に至りて集釋つひに脱稿せり。この集釋いとも大部にて四十卷を數へ、引くところの書目は六百四十種、全書すべて四十萬言に及ぶといへり。論語本文の章句おのおのにつきて、考異・音讀・考證を記して餘すところなし。古註をも新註をもともに掲げ、さらに別解・餘論・發明・按語なる項目を設け、弘く今古諸家の釋義を引きここかしこおのが見解をも加へ陳べたれば、もしこの一書、論語註解の集大成と名づけむともさらにその名に恥ぢざらまし。

右に引ける八佾篇第五章の眞義を尋ねむにも、程氏釋義を披き見ばよきたよりそこばく出できなむは疑ひなければ、今はむねとこの書にそひて勘へむにしかじかし。さはれ程氏の記述つばらなることよなくてそをのこりなくけみせむはいともこちたきわざにてそのえうありとしもはたおぼえず。ただよろしく取舍ありて助けとせばまづことたらひぬべし。

右の章句おほかたの習ひにはただ、夷狄の君有るは諸夏の亡きにしかざるなりと訓み下してあやしまず。かく訓まむときは夷狄に君ありてその國治まり、かへりて中華には君なく

て世亂ることありたりとも、夷狄の性さがもとより中華に劣りたれば、夷狄の中華に及ばむことつひにあるべからずと釋く外なきにたり。げにかかる趣意にそひて章句を解ためしきし例と見つべきは邢昺にてその論語義疏に述ぶること左のごとし。

此章言中國禮義之盛而夷狄無也。——中略——言夷狄雖有君長而無禮義、中國雖偶無君若周召共和之年而禮義不廢、故曰夷狄之有君不如諸夏之亡也。

邢昺のかかる夏夷優劣論の要かなめとなれるはすなはち禮義の有無にほかならず。夷狄の中華に勝るいはれつひにあるべからぬは、中華にそなはれる禮義の夷狄には缺けたるゆゑなるを説けるなり。かの世の唐土人もろこしにとりて諸夏の夷狄に劣らむことつゆあるまじければここに邢昺の述べし華夷優劣の論ひなにのめづらしきふしもなし。かかることわりを孔子のわざと唱へ出でなましかばかへりてえうなきすろごとならまし。孔子の眞意かならずほかにありと思はでやはあらむ。

孔子諸夏の君なきに言ひ及べれど、まこと諸夏に君なかりしことかつてありやなしや、かく思ふにつけてせめて一たびは勘へでやむまじきは、西周の末つかたにありたるなる共和の政まつりごとにて、このこと右に引きし邢疏の内にも見えたり。史記の周本紀にて厲王の世を敘ぶることやや詳かなれど、周徳すでに衰へしころ國亂れて、この王都を奔り出でて薨ていに逃げたれば、王なき後も都に留まりし周公と召公の二相しばらくあひともに政を攝り、王みまかりし後にその太子を王位に就けたりといへり。厲王出奔より宣王卽位の十四年につきて司馬遷の用ひたるは共和の二文字なれど、今の世に君主なき國を共和國と云ひならはせるはこの共和に因めることいはずでもしるかるべし。しかるにこの共和なる語まことは人名にて共和伯なる時の賢侯を指せりと説く典籍はたなきにあらず。いづれ正説なりや、にはかに定めむもよしなれど、孔子の諸夏の君なきをいへること西周の共和にただに連れりとはなかなか想ひがたかるべければ、さてやみなむとも苦しからじ。

そも夷狄といふは、例へば爾雅釋地の郭象注に、九夷在東八狄在北七戎在西六蠻在南と記せるごとく、中華の四陲より仇なす化外の民を指せるを常とするがごとくなれども、まことは中華と夷狄のけぢめさまでけざやかなるにてもあらず。

あまたありし春秋諸侯の内にて、魯衛晉など周室と同姓なれば、これら中華なりといひてさてもありぬべけれども、楚と秦はこれにかはりてもと蠻夷たりしにほばまぎれなし。さらに吳につきてその先を尋ねむに、これ初めより東南夷たりしにてはあらず、その遠つ祖太伯は周の古公の長子たりしかども、弟王季に位を嗣がしめむとて、東南に奔りわれと文身斷髮して荊蠻の君長のごとくになりたりしなり。

ここに春秋哀公十二年の公會晉侯及吳子于黃池といへる經文につきて公羊傳と何疏にく

さぐさに説けるをけみするに、この傳疏の趣意たる、吳子の會盟を主りしを非り、諸侯のあたかも吳子に臣從せしごとくなりしを惡めるにあることおのづから知るをうべし。されば、公羊高と何休ともに吳主を諸夏の列には數へず夷狄と見なしたりしにほばまぎれなきなり。

司馬遷のいはゆる春秋十二諸侯、孔子心の内にていづれを中華にいづれを夷狄に思ひなせしや、尋ねむにたよりなければ、あながちにあなぐらひてもなにかはせむ。公羊春秋家の華夷の論ひ、孔子の筆になれるなる經文の眞義にさながら通へりとはなかなか思ひがたし。すでに引きし論語義疏にて、夷狄のつひに諸夏に及ばざるは、諸夏にそなはれる禮義の夷狄には缺けたるがゆゑなるを邢昺の説くこといともねもころなれど、春秋の世の諸夏につねに禮義そなはりたりしやいともいぶかしければ、邢昺の論ひさながら適へりとしも思はず。

華夷の優劣のものはら禮義の有無にねざせるはさることなれども、二百四十年にわたれる春秋の世の遷りゆくにまかせて諸夏の亂れゆきしこと一かたならず。人倫廢れ禮義壞れゆくそのはてに君ありともなきがごとくになれるためしさへ少なからず。諸夏の君なきと孔子の云へるはげにかかるありさまを指したるにてもやあるべき。名は中華なりとも禮義に缺くることあらば中華の名に恥ぢざらめやはの意なるべし。

程樹德その集釋に宋儒より後の諸家の釋義をも載することつばらなれど、今その内ことに目とむべき二つ三つばかり採りて引かむに、まづ清の宋翔鳳の論語發微にて

此蓋指魯之僭亂無君臣父子之義同於夷狄不如滅亡之爲愈

と云ひて、夷狄と別ちなきまで魯國の亂れぬるを孔子の嘆けるにとりなしたり。孔子の慨きけむかかる亂れ、魯國にかぎりしにてもあらざるべし。すでに元の陳天祥その四書辨疑にて

蓋謂夷狄專奉君命而有上下之分、是爲有其君矣、諸夏蔑棄君命而無上下之分、是爲亡其君矣、此夫子傷時亂而歎之也

と説き、同じその陳櫟の四書發明には、中國に人倫なければ夷狄にしかざるを述ぶること左のごとし。

諸夏所以異於夷狄、以有君臣上下之分爾、今居中國去人倫夷狄之不如、春秋所以作也ここに和訓の方より勘へむに、夷狄之有君不如諸夏之亡也の一句、あるいは

〈甲〉夷狄の君あるは諸夏の亡きに如かざるなり。

さなくは、

〈乙〉夷狄の君あるは諸夏の亡きが如くならざるなり。

と訓まむほかにまた訓みやうありとも思はれず。一句の大意、もし〈甲〉によらば、よしや夷狄に良き君あり諸夏に君なからむとも、夷狄の諸夏に勝ることつひにあるべからず、となるべく、また〈乙〉に従はば、たとひ夷狄の國なりとも良き君上にあらば、君ありとも君なきにたる諸夏のごとくにはあらで、かへりて勝りて見ゆるぞかしと云はむに近かるべし。されば〈甲〉と〈乙〉と文意まさに逆^{さか}しまにて、また邢疏によらば〈甲〉に訓まむほかなく、宋翔鳳陳天祥陳櫟に沿ひて釋かむとせば〈乙〉に訓まではあるべからず。

南宋の朱熹その論語集註八佾第五章にておのが説をぢきに陳ぶることなく、むねと程頤尹焞の注語に藉りてみづからの釋義を知らしめむとせること左のごとし。

程子曰夷狄且有君長不如諸夏之僭亂反無上下之分也。尹氏曰孔子傷時之亂而歎之也。すなはち諸夏にて君臣上下の分無く國ひたぶるに亂れぬるさま、夷狄に君長ありて治まれるがごとくならず、かへりてそれに劣れるが歎かしきなりてふ意を含みたるにいたり。

孔子にとりては夷狄のことはただかたそばにて、むねと心にかけしはそのころの諸夏のありさまにて、人倫壞れ禮義廢れてひたぶるに亂れゆけるをかつ歎きかつ誠^{いまじ}むるが眼目なれば、夷狄のことはただ引き添へたるばかりにて、夷狄のつひに中華に勝ることなしてふことわりをここにことさらに唱ふるいはれさらにあるべからず。かにかくに考へもてゆけば、なほおぼつかなきふしたえてなしにはあらねど、しばらく朱熹新註の釋義を採り、和訓の方にては〈乙〉に従はむこそ難少くおだしかるべけれ。

(令和七年一月二十三日受附)